

令和5年度 校長より ⑧

2学期始業式が8月28日(月)に行われた際に、校長講和として全校生徒及び全教職員に向けてつぎのとおりのお話をさせていただきましたのでお知らせします。

ご家庭においてもこの機会にご家族で話題としていただければ幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

今日の話は、「個人の尊厳」についてです。

「尊厳」と聞くと、何か重々しく難しそうな感じがすると思いますが、「尊厳」とは、「生まれながらにある尊い人格のこと」をいいます。そして、この「尊厳」を認める気持ちで人に接することを「敬意ある姿勢」とか、「敬意ある態度」と言い表します。

この「敬意」がお互いにある中で、コミュニケーションが執り行われれば、その二人には、対等で、良好な人間関係が築かれることとなります。しかし、片方にでも「敬意」がなく、コミュニケーションが執り行われれば、その二人には、対等で、良好な人間関係が築かれることはありません。つまり、対等で、良好な人間関係を築くためには、二人がどんな間柄であっても、「相手の尊厳」を認めていることが不可欠であり、コミュニケーションを執るには、相手へ「敬意」を持つことが大前提として必要だ、ということになります。

また、「尊厳」には、優劣は存在しません。つまり、人間はそもそも生まれながらに対等だ、ということです。

しかし、社会には、優劣は存在します。学校には、先生と生徒がいます。先生同士の中には、同僚もあれば、上司と部下もあります。生徒同士の中には、同期もあれば、先輩と後輩もあります。

同僚や同期は対等ですが、教師と生徒、上司と部下、先輩と後輩は、対等ではありません。でもこれは、「尊厳」の違いではなく、「立場」の違いです。指導する側とされる側、支援する側とされる側の「立場」の違いです。家族においても、同様のことが言えます。

では、「立場」の違う間柄で、良好な人間関係を築くためには、どのようにすればよいのでしょうか。それは、相手の「立場」を認めたり、配慮したりするなかで、常に、相手に「敬意」を持ってコミュニケーションを図る、ということです。「立場」では対等ではないけれども、「尊厳」では対等な人間関係をお互いに築くことが、良好な人間関係の基本になる、ということです。

二学期をスタートさせるにあたり、自分が生徒や先生に、部下や上司に、後輩や先輩に、そして、同期や同僚に、「敬意ある姿勢」や「態度」で接しているか、「相手の尊厳」を認めてコミュニケーションを執っているか、私も含めて、みんなと一緒に、また、一人ひとりに、自分を振り返る機会を持ってほしいと思っています。

皆さん、どうぞよろしく申し上げます。

令和5年9月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆